～幸いの神さま～

夫婦岩信仰について

夫婦石は、日本各地にある奇岩、名勝。
「夫婦円満や家内安全」「海上保安や大漁追福」
の象徴や祈願でもあります。

古くは磐座（いわくら）信仰として、
自然、特に巨石、岩、山を神体とし、
神が宿る場所として始まりました。

『古事記』においてイザナミとイザナギ、
サルタヒコとアメノウズメなどの夫婦神があり、
これらが賽の神（さいのかみ）や道祖神になり、
磐座信仰と結び付いていったと考えられています。

やがて時代とともに夫婦一体の地蔵や道祖神、
2 つの大小の岩や石像が一対となったものが
まつられるようになり、夫婦信仰として
日本各地で親しまれるようになりました。

身近なところでは夫婦茶碗などになり、
同時に子作り・子育て・子宝信仰にも
深く関わっています。

参照：Wikipedia

～村の守り神～

夫婦道祖神について

道祖神は道祖神は塞（さえ）の神とも言われ、
幸いの神・歳の神などと記されることもあります。

「さえ」とは「さえぎる」の意で、
本来は悪霊や疫病など邪悪なものが
集落に入り込んでこないように、
辻村境・峠などに祀ってきたのが始まりで、
これに猿田彦神話や道の神思想などが結びついていきました。

それぞれの道祖神は「縁結び」「疫病退散」「五穀豊穣」
「家内安全」「子孫繁栄」などの願がこめられています。

安曇野には 500 体を超える道祖神が
至る所で旅人の安全と、
人々の暮らしを見守っています。

夫婦の形の道祖神を広めたのは、
信州高遠の石工たち。
江戸の時代に八王子、伊勢原、秦野あたりに
居を構えた高遠石工たちは、
その後全国に散らばり、仏像や道祖神、庚申塔など、
村人たちに依頼されては作ったそう。

安曇野では、河原に大きな花崗岩がたくさんあったため、
高遠石工に夫婦道祖神をたくさん作ってもらえた
という背景もあったそうです。

参照：信州あずみの　公式観光サイト「安曇野の旅」、Wikipedia